

議員定数及び議員報酬調査特別委員会 摘 録

1. 開催日 令和5年8月18日（金） 第2委員会室
2. 出席委員 政野太委員長 桂藤和夫副委員長 堀井秀昭 福山権二（遅参：～10：27）
藤木百合子 國利知史 松本みのり 林高正議長（遅参：～10：12）
3. 欠席委員 なし
4. 事務局職員 山根啓荘議会事務局長 横山和昭議会事務局議事調査係長 橋本和憲議会事務局主任主事
5. 説明員 なし
6. 委員外議員 坂本義明副議長
7. 傍聴者 1名
8. 会議に付した事件
 - 1 付託事項の審査
 - 2 今後の審査について
 - 3 その他

午前10時00分 開 議

○政野太委員長 それでは、ただいまより第13回議員定数及び議員報酬調査特別委員会を始めたいと思います。福山委員から遅参届が出ております。出席委員は6名。林議長も遅参届が出ております。直ちに協議事項に入りたいと思います。

1 付託事項の審査

○政野太委員長 今回は、追加で皆さん方に議論をしてもらいたいということで、資料2の議員定数の推移を見てください。実は、これまで、皆さんにいろいろな視点から御意見をもらった中で、資料を準備したり、精査をしてきたつもりですが、この点について1点抜けていたということで、急遽、まずこの点から協議していきたいと思います。一旦、数字を見てください。これが、近隣市町あるいは類似自治体の議員定数の削減状況です。庄原市は、平成25年に一度に5人の定数減を実現をしています。他自治体が10年をかけて段階的に定数減を行っていることも勘案すべきという意見により、この資料を準備しました。堀井委員からも何度か話がありましたが、人口が10年で7,000人減っている。この現実をどのように捉えるべきかも含めて、この数字を見てください。いかがですか。この数字を見て御意見をください。資料を見ていただく時間を休憩とします。

午前10時6分 休 憩

午前10時13分 再 開

- 政野太委員長 それでは、会議を再開します。この資料2を見て、1人ずつ御意見をください。國利委員からお願いします。
- 國利知史委員 このデータを見て、特段、庄原市が人口の減少の割りに減らしていないとか、そういうことが見てとれるというわけではないかなど。皆さんもそう思われているかもしれないですが、そのような状況なのかなと思います。
- 政野太委員長 堀井委員、お願いします。
- 堀井秀昭委員 単純にこの数字を比べてどうのこうのと言える状況ではないように思いますが、各自自治体とも、人口の減少をその要因としながら、この10年間で一定数の議員定数削減をしてきているなという感じはします。人口減少率に合わせたようでもないので、これは、それぞれの自治体の都合にもよるでしょうが、一定の人口の減少、議員1人当たりの人口は何人ぐらいが適正かという数字が出ているわけでもないで、それをもとにどうのこうのと言う資料にはなり得ないように思います。
- 政野太委員長 藤木委員。
- 藤木百合子委員 庄原市は、2013年に、1度に5人減らしているということで、この表を見て、先ほど皆さんも言われたように、特段、定数に関して、人口減少とか、そういったことで乗り遅れているという感じは受けませんでした。議員定数が何人だったら適正なのかというのは、非常に難しい問題だと思います。それぞれの市町で状況、いろいろな条件が違うわけですから、その中で、参考資料として他市町の議員数を見ることはとても大事だとは思いますが、この表を見て、庄原市において本当に適正な議員数というのを考えていきたいと思いました。
- 政野太委員長 松本委員。
- 松本みのり委員 この表を見て、数字に出てこない背景の部分の違いというのがなかなか見えないので、これを見て、庄原市の数字と比べてどうであるというのがすぐに言いづらくて、先ほどは黙ってしまったのですが、私個人の思いとしては、議員の人数を減らせば減らすほど、その分だけ議会の多様性が失われるというのは確実なので、なるべく人数を保ちたいという思いがあります。一方で、堀井委員が言われるように、この10年で7,000人減ってきた中で、本当にこのままで行くのかと言われたら、その部分も悩むところがあって、この先10年も20人のままでいけるかといったら、そうではないだろうという思いもあります。その中で、議員定数を減らさなければならないときに向けて、何をしていくべきかも考えていく必要があると思います。あとは、もう1つ。今、自治振興区は22ありますよね。この先、統合などが出てくるかもしれないのですが、その数との兼ね合いも見ながら定数を考えていけたらと思います。
- 政野太委員長 桂藤委員、お願いします。
- 桂藤和夫副委員長 皆さんがるる申されましたのでかぶる部分もありますが、この数字を見る限り、他市町と比較して庄原市がどうのこうのという状況ではありません。10年前に議論された、3つの常任委員会を維持して庄原市議会を活性化しよう、という流れの中で20人に決まった状況もあるようですので、その辺も議論しながら、これから、定数についてしっかりと議論を深めていかなければいけないのかなとは思いますが、この数字を見て、特段、どうのこうのはありません。各市でいろいろと協議しながら、こういう結論を出されたのでしょうから、庄原市もいろいろな課題を検討しながら、最終的に議員定数についてまとめていけばいいのかなと考えています。
- 政野太委員長 副議長、議長、何かあれば、議長。

○林高正議長　この前言ったことと同じなのですが、評論家ではないけれども、よその町の議員定数の減らし方を見てもらったらわかるのだが、何となく、世論というか、ポピュリズム的に、人口が減ったら減らさないといけないのではないか、というような形になっています。この中で、三次市が15.4%で低いというのは、どういうことがあるかと言えば、各旧町村から議員を必ず出すというのが不文律みたいに残っているのです。だから、踏み込んで減らさない理由がそこに1つあります。庄原の場合は、結果的にそうってしまったが、総領と比和に議員がいなくなった。高野には2人いますし、そういったこともあるのだと思う。先ほど松本委員が言っていたけれども、自治振興区の考え方もあるだろうし。逆に、庄原市は支所の人員がすごく厚いのです。三次市はすごく薄いのです。そんな背景があるから、庄原はオリジナルで考えて議員定数を議論したほうがいいのではないかなと思います。

○政野太委員長　副議長、よろしいですか。

○坂本義明副議長　先ほども少し言ったのだけれども、この表を見て、新見市と安芸高田市が極端に減っているなという思いがあったのと、もう1つは、現在は、これを見ながら判断するのは適正ではないかと思うが、このままの人口の減り方を考えると、次の時には、もう一遍再確認して、人口がもっと減ってきているのなら考えないといけないかなと思います。

○政野太委員長　私も意見を言わせてもらいますが、何人かの委員の方が言われた、背景が違うとか、いろいろな状況が違う。これは当然だと思いますので、その部分については、また意見として聞かせてもらえればと思います。ただ、背景とは別に、単純に同じ条件だけを比較したのがこの表です。表を見させてもらう中で、庄原市が1度に5人定数減をしている現実からすると、他の市町と比べて、特に遜色はない。大きく減らしているということでもないし、逆に、減らしてないということでもない、というのが読み取れると感じています。皆さんの意見を聞かせてもらいますと、この議論の結論というか、この表だけから見ると、他の市町は人口で減らしていると読み取れますが、先ほどもありましたけれども、何人が正しい数字かという答えはありません。そう考えたときに、この表だけで見ると、庄原市は特に問題があるとは思えないという答えが導き出されるのではないかなと思うのですが、その点についていかがですか。そういう方向の答えになりますが、よろしいですか。その上で、次の段階で、庄原市独自の考え方が求められるのだと思います。よろしいですか。堀井委員。

○堀井秀昭委員　この表の見方なのだけれども、2013年の人口、25人から20人に5人定数減をした庄原市の、この10年と考えられるのか。この10年が始まる前に決めたことでしょうか。この10年間の7,000人減少という中では、庄原市は議員定数を削減していない。ゼロなのです。

○政野太委員長　例えば、三次市を見てもらえればわかるのですが、これは2024年、次の選挙なのです。次の選挙の数も含めての4人です。だから、選挙の時期によってずれがあります。例えば、真庭市もそうです。2025年の選挙では2人減らすという数字が出ているので、そこは、多少選挙のずれがあって比較は難しいですが、10年で5人と言えるのではないかなと思います。例えば、2013年に5人減らした理由が、人口がこれだけ減ったから減らしたというのであれば、堀井委員が言われたのもわかるのですが、決してそうではないと思います。

○堀井秀昭委員　2013年の判断は、3万9,000人の人口のもとで庄原市議会の議員定数は20人と決めた。それ以降に7,000人の減少があったと捉えないといけないのではないかな。

○政野太委員長　今の堀井委員の意見に対して何かありませんか。堀井委員。

○堀井秀昭委員　例えば、隣の三次市で言うと、2016年は人口5万6,000人で26人だったそれが、こ

の10年間の7,393人の人口減少を受けて、議員定数を4人削減したというふうに見ないといけないのではないかと。庄原市の場合は、人口が3万9,000人のときに20人に決めて、3万2,000人になっても20人のままと。

○政野太委員長 皆さん、今の御意見に対して、御理解はいかがですか。議長。

○林高正議長 前の話も、正確には覚えてないけれども、人口減少の議論はほとんどしたことがないと思う。何度も言うけれども、常任委員会の活性化というか、それで進めていこうという議論しか、主にしたことではないのではないかなと思います。

○政野太委員長 堀井委員。

○堀井秀昭委員 議長にお伺いしますが、その時の判断は、議員1人当たりの人口は約2,000人程度が適当だという判断は働いたのか。

○政野太委員長 議長。

○林高正議長 人口規模の調査とか、そういうものも全部しましたけれども、2,000人に1人という判断ではなかった。

○政野太委員長 一旦休憩させてください。

午前10時28分 休 憩

午前10時33分 再 開

○政野太委員長 それでは再開いたします。この資料2について、皆さんの意見をもらっていますが、福山委員からも一言お願いします。

○福山権二委員 はっきり言って、この数値がどうのこうのというのは、あまり関心がないのです。何で関心がないかという、前も話したのだけれども、議長が言ったように、人口減少は当然あるわけで、庄原市の人口減少の状況というのは十分に認識しながら、議員定数を各自治体で独自に判断するというので、そのことを基盤に考えたら、何を一番ポイントにするかというのは、庄原市議会としては、特別委員会あまりつくらずに、常任委員会を活発にして、そして、議会改革も同時にすることを決めた。その時に私も主張したのだけれども、あまり少なくすると、これだけ広い庄原市で、議員が出せないところも出てくるのではないかと。例えば、総領はその当時1,325人くらいの人口があった。総領から1人出ると考えれば、計算すると、25人はちょうどいいと。したがって、現状の25人でいいという主張もしたのです。だけれども、そう考えるべきではないと。もっと少ないところがあれば、そこが基準になるのかということ、その数の基準というのが、妥当性があるようであまり妥当性がないので、庄原市議会の責任ある議員定数、庄原市議会独自の判断として、委員会をきちんと活性化させよう。そのことで前進していこうというのが議論の中心になったので、それを基準とすれば20人だと。20人は委員の最低限の数ということで、これより減らしたら委員会が十分に機能しないと判断をしたことが根拠となって20人と決めて、今のところそれ以上減らすのは妥当ではない、という判断をしたのです。だから、議長が言ったように、人口減が、よその市がどうあろうと、庄原市議会独自の判断として、議会の責任を全うするためには委員会が重要だということに軸足を置いて決めたことなので、あちらこちらとの比較とか、人口がどうなるかというのは、あまり中心

に考えてない。だから、今そのことを考えて、これだけ人口減があるのだから、当然、議会は定数を考えて、どこかに照準を合わせて、委員会は併任したほうがいい、という主張があれば別だけれども、考えはそうです。だから、今のところ、この委員会でも、私の意見とすれば、委員会を十分に強化するという基準、今もってその妥当性は継続しているのではないかと思います。委員会が十分に機能、責任を果たしているかという、不十分な点はいっぱいあると思う。ただ、努力はしています。責任として、委員会の定数を6人にして、今の定数を守るのが一番いいのではないかと。もう1人減らすとか、そういうことはもう考えない。

○政野太委員長　議長も福山委員も結論に導くようなことを言ってもらっているのですが、あくまでこれは、最初から毎回この確認をしておりますけれども、この数値から、特に問題ないのではないかと。ということであれば今回の議論が成立するのですが、この数値に対しての思いは全く関係ないと言われれば、それはもう全く関係ないのはわかっているのです。ただ、庄原市の常任委員会の活性化をしていくというのはこれからのことであって、これまで足りてないということもまだ議論していません。まずは、この数字を見て、庄原市のこれまでの10年間、ほかの市町の10年間と比較して、今出ているものだけの意見は何かありますか。福山委員。

○福山権二委員　人口が減少しているというのは大変な問題で、その点については非常に重要なポイントだと考えていますが、今はそのことを基盤にして考える条件がない。これだけの数字があっても、これだけ減っていても、そのことを根拠にして、議会の責任を果たすということに視点を置いてみるならば、これだけの数字が出ても、今の議論の中であまり大きなウエートを示さないのではないかと思います。

○政野太委員長　堀井委員。

○堀井秀昭委員　そういった考え方もあるとは思いますが、議員は住民の代表。何人ぐらいの人口で、何人ぐらいの議員がいればいだろうかというのが基本だと思う。あとは、委員会の活性化とか、議会の責務を果たすとかは、議員も選挙ごとに変わるし、それは、議員の努力によって修正されて、活性化に向けての道を歩まないといけないことであって、議員定数によって左右される、そういうものではない。やる気があれば、10人でも15人でも、議会は活性化することができるだろう。20人いないと活性化できないという考え方は、それは固定観念過ぎると思います。基本は、どのぐらいの人口、どのぐらいの数の住民がいて、1人の議員が大体何人ぐらいの住民の代表として活動をしていくのが適切かということを考えてほうがいい。2013年の時点で、3万9,000人ぐらいの人口がいるときに、20人ぐらいが適切だと考えたのなら、議論にはならなかったといえ、一定の、約2,000人近い人数で1人の議員という数字がその時出されて、示されているわけだから、それを元に戻せ、それが絶対だとは言えませんが、無視してはいけないのではないかと気がします。

○政野太委員長　福山委員。

○福山権二委員　今の堀井委員の主張の中には、数の問題と資質の問題を同一すべきではないと。数はいくつでも資質の向上を図れるのだということがありますよね。努力次第で何とかなると。そのことが基底にあって、これだけ人口が減っているのだから、それに連動して考えたほうがいいと。どうするかは別として。その定数を考えるときに、人口の減少と議員の熟練度、能力、そこらは連動して考えないといけない。だから、何人いても、人数が少なくても、多くなっても、それは能力とはあまり関係ないのだと。能力を考えずに、数を重視するほうが妥当だという意見に聞こえる。だから、委員

会が6人でないといけないということもない、あるいは1人の議員が2つの委員会に行くとか、委員会を2つにして、所管を2つに分けることもできるのではないかと。議員の数ではなく、能力の問題であると。能力の問題だと言えば、少し範囲が広がる。今回みたいに、新人議員が全体の3分の1を占めるような選挙結果になったり、これが短時間でそういうことができるのかという問題にもなる。だから、20人にしたことも、委員会を基準にするということが全ての回答に対応できる数だと、委員会を強化するという方針を出せば、そこに議論の1つの立脚点を置いて物事を進めたということ。だから、今の堀井委員の提案を聞くと、委員会の数、定数を決めることについては、基準がなくなる。人口が減った、それだけとなると、また人口が減ると、面積のこともあるから、人口が減ったという基準を庄原市議会として1つの基準にすることになると、今の状況下で言えば、どんどん減るようになる。それでもそういう基準を今の議論でつくるのかといえ、少し難しいのではないですか。

○政野太委員長 堀井委員。

○堀井秀昭委員 委員会の定数は6人が適正という判断を、またこれから先何年も守り切れるのか。守りきれないだろう。その自治体の人口によって定数を定めるのが、議員定数の人数を定めることよりも上にあると思う。議会の都合で、委員会が6人は必要だから20人を守ろうという議論をしてはいけないと思う。

○政野太委員長 議長。

○林高正議長 人口の話ですが、だんだんと思い出してきたけれども、いろいろなところの人口、議員数を比較しました。地域別で言えば、四国エリアは人口と議員数は全く関係がなく、例えば、人口が3万人いたとしても議員が10人とか、なぜそうなったのかはわからないが、四国はそういう市町が多いのです。それと、当時から複数所属できるようになっていたので大きく議論はしなかったけれども、通年議会をしたらどうかという話も少ししたことを覚えています。その話をしたら、通年議会を誤解されて、毎日来ないといけないからそんなものはいけない、という意見が出たのを思い出しました。自治体によって、その背景もあるだろうし、いろいろなことがあって決めたのだろうなど。はっきり言うと、当時、福山委員ともかなりやり合っているのです。その中から導き出されたのが、常任委員会だったので。だから、ずっと6人で常任委員会をして、人口が減ってきて、議員を減らさないのかと言うが、その時々情勢も必要だと思います。旧庄原は1万6,000人くらい人口があるが、他の町はどんどん減っているわけです。そのままほっとらかしにしておくことがどうなのかという話になって、議員の数がどうのこうのということではないくらい危機感を持つべきだと思います。だから、議会は議会として本気で動いていって、人口減少に対してどう対処していくのかを示していく。そういう意味からも考えていったほうがいいのではないかなと思います。

○政野太委員長 福山委員。

○福山権二委員 前回のときには、西東京市なども1つのポイントにしたような気がする。2キロ、5キロの狭い中に10万人を超えている人口がいて、そこは人口としてどうなのかというと、あまり少なくはないですね。資料がないけれども、人口を考えたときに、数も多かったと思う。だから、そのあたりも考えて、人口を中心にして考えるよりも、その地域の自治体の自主的な判断、どこがポイントかということで決めた経過があるような気がします。だから、エリアが狭いのなら、議員は、2キロ、5キロくらいなら5人でいいのではないかとはいっていないこともあったのだろう。だから、議論の中で、人口の変化というのは非常に考慮しないといけないが、庄原市議会

としては、常任委員会を主眼に置いたという結論しかないのです。それ以外のことを話すと、いろいろなケースが考えられてまとまらないのです。だから、常任委員会が6人ということが何でいいのかと堀井委員が言ったけれども、そこに我々の活路を見出して、そこを強化をして責任を果たそうという、責任を果たす度合いとして、そこを考えて意思統一をしたと。だから、25人から20人というのは絶対に反対だった。人口減が進んでいるし、これだけ広さがある。だから、人口を考えるということは大事なのだが、委員会を中心にした。当時は、議会定数をもう少し考えたほうがいいのかという市民の声も、少し動きもあったような気がする。それに応えながら、ただ、これだけは守ろうということで、議会としての基準を委員会に置いたということです。

○政野太委員長　いろいろと御意見をもらっていますけれども、何度も言いますが、常任委員会は、常任委員会の検討をしたときに、既に、ある程度答えが結論付けられています。後ほどまた説明します。改めて皆さんにお伺いします。この表を見てもらって、先ほど堀井委員からの指摘もありましたが、そこは御理解してもらったと思います。この10年間での議員定数の減の比較あるいは人口の比較という、単純な10年間という数字を見てもらったとき、庄原市と三次市の数字を見て、この視点から議員定数を求めることが、現時点で、庄原市が議員定数を減にする理由として成り立つかどうか、その御意見だけもらえればと思います。いかがですか。福山委員。

○福山権二委員　三次市と比較して定数がどうのこうのと考えるのは、全く違うのではないかと。

○政野太委員長　あくまで、この数字を参考にするだけです。その中身、背景、そういったことは一切考えないでください。

○福山権二委員　そういった前提だと、意見が言いにくいですね。そういうことは一切関係なく、数字だけで議論しろと言われると、三次市は能力があるのだろうというくらいのこと。

○政野太委員長　國利委員、いかがですか。

○國利知史委員　表だけで見ると、先ほどから、何人に1人が適正かとか、そういったことも出ていますし、計算してみたのですが、庄原市が、近隣、それから、類似した北秋田市とかと比べても、この数字だけ見ると、極端に、何人に対して1人の議員という差がない。三次市は、2,200人に1人ですが、そのほかは、1,600人とか、1,800人とか、そういったニーズの中で1人。庄原市もそういう状況ですので、この表だけで見ると、これだけで判断はできないのではないかなど。

○政野太委員長　聞き方が悪かったかもしれません。トータルですから、これだけで定数を判断することはありません。この数字を見てもらって、この数字だけを比較したときに、庄原市の議員は多いか、少ないか、それだけです。ちなみに、最初に言いましたが、私は多いとは思いません。1回で5人減とかどうかというのは全く抜きにして、現在で比べたときに、庄原市だけが異常に多いということはこの数字からは読み取れないのですが、それ以外の御意見があれば、お聞かせください。國利委員。

○國利知史委員　それで言うと、多いとは思いません。

○政野太委員長　いかがですか。だから、人口が減っていることについて、もちろん、堀井委員の意見はまた別の視点でまとめの中に入れていくべきだと思いますが、将来の人数について、今ここで決めるわけにはいきませんので、そういう答えを出すようになります。この、評価の表に基づく件についてはよろしいですか。全員に聞きましょうか。藤木委員。

○藤木百合子委員　先ほど言ったように、これを見て、特に庄原市がどうのこうのということはないように思います。

○政野太委員長 松本委員はいかがですか。

○松本みのり委員 同じくです。

○政野太委員長 堀井委員の意見はたくさんもらいましたので、よろしいですか。それでは、この点についての議論は、これでまた答えを導き出させてください。続きまして、資料1を見てください。これは、前回の会議の終わりに皆さん方に御説明したものです。まずは、最初のほうで、今回、定数を考えるに当たっての視点を、皆さん方の御意見で、市民アンケートの回答であるとか、あるいは類似自治体、近隣自治体との状況を参考に決めるべきだと決まったもので、この4点の視点から検討してきました。その中の主な意見を記載しています。黒い太字が皆さん方の意見だと思ってください。それに対して、矢印で、こういった検討資料を用意して比較したということを記載しています。それが、人口及び人口密度の視点からと、面積という点から。それから、常任委員会構成、財政状況という視点で皆さん方に御協議をしてもらいました。それに合わせて、これも前回申し上げましたが、庄原市の議会基本条例に当てはめたときに、どのような整理になるかということで、議会の活動原則、第2条の5項に照らし合わせて、はめ込んでみました。ゆっくり見ていただいたほうがいいのかもかもしれませんが、何か、記載漏れ、こういった点がもう少しあったのではないかと、何かあれば、御指摘ください。当てはめで整理をしたときに、皆様方から非常に多くの意見をもらいました、常任委員会の活性化という答えが導き出されるのではないかと、ということで案をつくったのですが、いかがですか。ゆっくり見ながら聞いてください。これをもとに、定数に関する中間報告をまとめていきたいと思っています。ただ、あくまでこれは中間報告です。最終決定ではありません。最終的には、定数と報酬をあわせて、最終議論になると思います。いかがですか。よろしいですか。これは、まとめるためのたたき台ですので、何か漏れがあれば言ってもらえれば、よろしいですか。先ほど、最後に議論してもらったものをつけ加えて、特別委員会での定数についての現時点での考えをまとめていきたいと思っています。そのまとめについては、また皆様方に御提示して御意見をもらうようになると思います。ただ、何となく、流れからすると、確かに人口減の問題はあるけれども、庄原市の実態あるいは今後の議会の在り方について、定数は現状を維持していくという、現時点での答えになるかと思っています。その点について、皆さん何か御意見はありませんか。これは、あくまでも現時点です。これから先、市民の方の意見をいろいろお聞かせしてもらいたいと思います。その中で、我々がこれまで議論してきたものが覆されることがあるかもしれませんので、現時点ということでも言わせてもらいます。よろしいですか。福山委員。

○福山権二委員 アンケートの結果、議員定数を減らしたほうが良いという意見も少しはあったのですよね。皆さんで、地域で議員定数のことについて何か話をする機会が幾らかあったとか、地域の中で減らしたほうが良いという意見と遭遇したことがあるのかどうか。アンケートでは、幾らか減らしたほうが良いという意見もあったと。議会としてはこういう判断をするのだと、いろいろな意見があったけれどもこうだ、と言うときには、一定の説得力があるものを言わないといけなと思うので、もし皆さんで、減らしたほうが良いという意見で何か特徴的なものがあれば報告し合いたいのです。真剣に議員定数を考えたときに、アンケートをとっていろいろな意見があったが、減らしたほうが良いという意見の中にどんなことがあったかは注目して、仮に、委員長が現状で良いということでも、それでいいと思うのだけれども、そのときに、減らしたほうが良いという意見の本質というのを、一定程度、共通認識を持っておかないといけないような気がする。しかも、議会の中でも、人口減少を基本

にしながら反映しないといけない、ということと違う意見もあるだろう。実は、私も、地域で集金常会とか自治会の中に入っていると、必ず議会報告を求められます。毎月20日に自治会長会議があったり、地域の集金常会が必ずあるのですが、そのときは、必ず議会の報告を求められます。そのときに、議会の話をしてどう思うかといえば、減らせという意見がないことはない。強力にあるのです。何をしているのかわからないとか、していることがよくわからないが、たくさんもらっているのではないとか、民間はすごく賃金が低いのに、あまり活動が見えないのにあれだけの報酬があるのは、それは考えたほうがいいとか、そういうことで減らしたほうがいいという意見があったように思う。そのときは、言った人に、この地域では私が議員で出ているけれども、私の活動が少ないと言っているのかと言うと、そんなことは言ってないではないかと。一般的な話として、いつも議会を傍聴しに来たり、議員にいろいろなことを頼んだり、地域の課題として議会を巻き込もうということをした人が、能力がない、何もしていないと言うのではなく、一般的な風潮の中で、議員はたくさんもらって何もしない、ということと言われる人が多い。だから、あまり広い範囲ではないけれども、地域で得た意見の中では、定数を変化させる根拠のあるような意見はあまりなかったと思います。もし皆さんのほうで、いや、うちのほうでこういう意見があった、ということがあれば報告してほしいと、委員長にお願いしています。

○政野太委員長　それは、これから11月に開催される市民と語る会にも、共通テーマの1つとして挙げていると思いますので、その場でも、市民の方の意見を聞けると思います。ただ、実は1つ悩みがありまして、市民アンケートについては、皆さんに1度は見ていただいて、その中から、議員定数ほどのような視点で議論していくか協議はしましたが、今回、定数を議論するに当たっては、そのアンケートの回答をもとに御意見をもらってますから、アンケート自体の評価もしていかなければいけないと思います。それを、どのタイミングでさせてもらおうかと考えています。その中にはもちろん、福山委員が言われたとおり、定数は減らすべきである、というものも自由記載の中に多くあったと思います。ただ、その自由記載の中に、その根拠というものをなかなか見ることができなかった。これは、林議長からも最初に御意見をもらった記憶があります。世間の風潮のように減らせという意見はあるけれども、それに対する具体的な根拠はないというのが現実ではないかと思います。その辺について、また精査、整理を。もう一度みんなで見て考えていきたいと思います。いかがですか。

○福山権二委員　これからの市民と語る会の中で、もちろん、ふやせという意見も出るかもしれないが、減らせという意見が出ることもあると思う。減らせという意見に対して、なぜ議会がそういうふうになるのかということについて、十分にその場で議論をしていくこと。今回の市民の語る会でも、減らせと言われたました、そうですか、と言うのではなく、こちら側の意見は別にして、働いていないとか、あるいは何々をしていない、こうしていないという具体的な指摘があった上で、定数減と言われているのか、なぜ削減するのかということについて確たる根拠があるのかどうかを十分に確認してから議論しないと。そこは話してから協議していけばいいので、そういうことにあまりこちら側が動揺することはない。減らしたらいいという話があれば、議会として自信を持って話していけばいい。極端に言うと、傍聴に来たかどうかは別として、自分の地域の議員とか、何を議会に求めてきたのか。今の議員定数は多過ぎるということですから、そういう議会とのかかわりを、一市民、一有権者として、自分が書いた議員との関係も含めて、議会をどういうふうに分かることとして活用するというか、そういうことをしてきたのか、そういう経験の中で意見を出しているのか、どういう根拠に基づいて

意見を出しているのかということとはぜひ聞いてみたいと思う。何かの風潮で判断をしてもしょうがないので、そこは、お互いにしっかりと聞いておく必要があると思います。

○政野太委員長　そのために、これまで議論させてもらった、市民の方にお答えする根拠を整理させてもらったと思います。もちろん、これ以上のお考えがあればお聞かせいただいて、また検討したいと思います。ただ、堀井議員が人口にこだわられたのは、それは、本当に思いがおありなのだと思います。アンケートの中で、市民の方の一番は、人口を基準に考えるべきであるというのが非常に多い。41.39%の割合を占めるくらい、そういう意見が多かった。だから、数字を提示させてもらって、人口から考えたときに、庄原市が特に多いというわけではないという根拠を検討してもらったと思いますので、また、これについてのまとめを皆さん方に見てもらえればと思います。堀井委員。

○堀井秀昭委員　先ほど、まとめの中で、現行でいくのが主体的な考え方のような発言をしたが、そこはまだ決めていないのか。

○政野太委員長　そういう方向でまとめを書き上げますが、そこからまた、その議論をしてもらえればあくまでも現時点で、です。

○堀井秀昭委員　きょねんの市民と語る会の、各地域の要望資料等を見ても、議員定数に触れたものが何件かある。触れているのは、ほとんどが、議員定数の削減について考えなさいという御意見。今回の、11月に行う市民と語る会でも出てきたときに、7,000人の人口減少がある中で、議会の委員会が6人は必要だからというような、そういった理由で乗り切れるのか。無理だと思う。もう少し、確固たるというか、現行で行くのなら現行、ふやすのならふやす、減らすのなら減らすというところを、何を基準に考えるのかと考えたときに、一番の大きな要因は人口だということを視点に考えて市民の皆さんと話をしないと、議会活動の優位性であるとか、積極性であるというようなことは理由にはならないと思う。そこら辺は、市民と語る会では自由発言を許していますから、定数の問題が出たときには、議員個々がそれぞれ発言をするでしょうが、市民の皆さんの団体の中に出てする発言なので、議員は議員として、しっかりした考えをもとに発言をしてもらわないといけないと思う。まだ、11月までは期間があるので、しっかりと議論を重ねてほしいと思います。委員長にお願いしておきます。

○政野太委員長　議長。

○林高正議長　今の堀井議員の意見ですが、それは、出て行く先で話が全く違ってくると思います。議員定数の話で、1,000何人しかいないところで、高野、口和、比和でそんな話をしたら乗ってきません。逆に敷信で、3,000人いるところでそんな話をしても全く興味がない。だから、議会として、こうするのだと。当時は、委員会を活性化するということでしたわけだが、議会はしているのだということ自信を持って言えば、20人がどうのこうのという話にはならないと思います。だから、根拠をあえて探すということ自体が、私からしたら、極端な話、ナンセンスです。国会がしていることなんか、全くそうです。人口が多いところしか国会議員は出れなくなっている。だから、そんなことではなく、庄原市議会として、20人でいくのなら、20人でいくという形にまとめていかなければ、市民と語る会に行けばばらばらなことばかり言って帰るようになるのではないかと危惧しています。

○政野太委員長　特別委員会での定数に関してのまとめというのは、そのころにはもう、ある程度出ていると思います。それから、時期的には、報酬についての議論を進めているところではないかと思えます。その中で、もちろん、市民の方から定数を減らせという声が出ると思えます。これはもう、当然出ると思えます。ふやせという意見も出るかもしれませんが、市民の方の意見をしっかりと聞かせ

てもらって、そのころに我々が出している答えとどういう差があるかということ、議員がしっかりと把握してやりとりをしてもらえればいいのではないかと思います。福山委員。

○福山権二委員　　今の堀井委員と議長の意見というのは、全く違うわけですね。堀井委員が言われたように、7,000人も人口が減っている中で、議員定数がこのままでいいと考えているのかと。その根拠を、委員会の定数が6人でないとうまくいかないのだと。だから、6人必要なのだということを言い切るために、その根拠をどうするのかという1つの投げかけがあったので、堀井委員に言うように、人口が減っていくのだから、一定程度、それに合わせた議会の進め方を考えることが自然ではないかと。人口が減るとするのは、非常に重要なポイントだと。それは、市民の一定の要求の中にあるのだろうと。それに対して、7,000人も減っているのに、議会が、委員会として6人は必要だと、そこを中心にするのだという議論が、果たして、議論として持ちこたえられるのかという提案があったのですよね。そこについて、議長は議長の判断がありますが、みんながそれぞれ、きちんと考えを持っておかないと。市民と語る会に行ったら、議長が言ったように場所によって違うだろうが、そのときに一定の考えを持っておかないと、みんなばらばらに言ったら、実は私も減らしていいと思っているのですと言ったら、ここの議論と違うので、本当はそこらも考えていかないと議論が持たない、維持できないことになる。減らせという人は、人口が減っているのになぜそのままでいいと思っているのか、これまでの委員会の活動の総括ができていいのかとか、それで不十分だったら、よそと違うのかどうかとか、どんどん言われる。それについて、議長から今、我々の基準はこうだという発言があったので、そこをきちんと捉えておかないと、我々の全体の合意ということもあるが、市民とのやりとりで議論が深まらないのではないかと感じる。そこは、いつかは、この委員会の場でフリー討論でもしておかないといけないと思います。

○政野太委員長　　1点確認をしておきますが、市民と語る会になった時点で、委員会であるとか、そういったものは関係なく、議員個々の意見としてやりとりをしようとして決められたものだと認識しています。だから、例えばここで現時点でのまとめが決まったとしても、議員それぞれの、個々の考えで市民と語る会の対応をするべきだと思います。その点については御理解ください。議会報告会ではなくなったのはそこだと思いますので。山根局長。

○山根啓荘議会事務局長　　議論の話で、庄原市がこの10年で7,000人減となったところについては、もう少し事務局で整理をする必要があると思いますので、もう1回提案をさせていただきます。というのが、2013年の時点でも、長期総合計画等で、人口の目標であるとか、そういうことがあって、人口減少をある程度見込んだのもあったのだと思うのです。それから、現時点においても、人口ビジョンであるとか、そういったもので人口減少を見込んでいます。これまでの協議の中で、この定数についていつまでを議論するのかお尋ねしたときに、今回は、次回までを議論するのですよということもあったものですから、そういったことも踏まえて考えると、この資料でいうと、7,000人減ったことになっていますが、この、7,000人減ったということは、2013年から人口自体は減っているのですが、議員定数とリンクしない部分もあるのではないかと思いますので、もう一度、事務局でも整理をしてみます。

○政野太委員長　　きょうの審査自体は既に終わっていますが、何か、その他御意見があれば、よろしいですか。國利委員。

○國利知史委員　　市民と語る会の話になりましたが、市民と語る会の11月までには、ある程度、この委

員会の中間報告をまとめて、そのほかの議員にも、特別委員会では今こういう方向で考えていますとか、この委員会としての中間報告も意思統一をするということで認識してよろしいですか。ほかの議員にも、この委員会では、取りあえず、定数は現状維持という方向性でいっているというのは、お知らせするような感じになるのですか。

○政野太委員長 情報は皆さんで共有したいと思います。ただ、個人的私見になるかもしれませんが、議会報告会をしていたころには、仮に、1つの議案で、反対した議員が同じ議会報告会に行ったとしても、反対意見を述べるができなかったのです。極端に言えば、議会で決められたことしか報告ができなかったのが議会報告会。最終的に多数決で決まるわけですが、そうは言っても、反対した意見もあるわけです。反対する意見も主張できるようになったのが、市民と語る会だと思います。そこについては、そういう認識を持ってもらえればと思います。議会運営委員会の委員長、それでよろしいですか。

○堀井秀昭委員 的確。

○國利知史委員 報告だけはすると。

○政野太委員長 もちろん、委員会としてはこういう報告だと。ただ、議員としてはこう思っているというのは、言われてもいいと思います。

2 今後の審査について

○政野太委員長 それでは、今後の審査について決めていきたいのですが、もちろん、報酬に入っていかなければいけません。その前に、もう少し整理しておかなければいけないことがあります。それは、先ほど山根局長からあった人口の整理について。それから、市民アンケートについて、議論に入るのが同じ時期になったので、精査がなかなか進んでいない部分もあるため、一旦、次回の会議で、市民アンケートについての精査、評価をしていきたいと思います。よろしいですか。その中で、次の報酬に向けて視点を決めていかなければいけません。次回はまだ少し難しいかと思いますので、その点についても考えてもらいながら、市民アンケートの精査をしていきたいと思います。よろしいですか。同時に、まとめも進行していきたいと思います。よろしいですか。何か、この視点が抜けているのではないかとかがあれば御意見をください。ないですね。それでは、次の会議は、そういう形で進めていきたいと思います。市民アンケートについては、モアノートにも入っておりますので、いまいちど目を通してもらって、次の会議にお集まりください。次の会議は、前回決めさせてもらって、8月31日、一般質問の提出日の最終日です。その関係で、午後からとなっております。1時半からということで、またお集まりください。よろしいですか。それでは、本日の第13回議員定数及び議員報酬調査特別委員会を終わります。

午前11時22分 散 会

庄原市議会委員会条例第30条の規定により、ここに署名する。

議員定数及び議員報酬調査特別委員会

委員長